

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立巨勢小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.1	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	78.3	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	91.4	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎分らないことや詳しく知りたいことがあった際に、自分で学び方を考えたり、工夫したりする姿勢が、全国平均を上回っています。主体的に学習に取り組む力が育っていることがうかがえます。

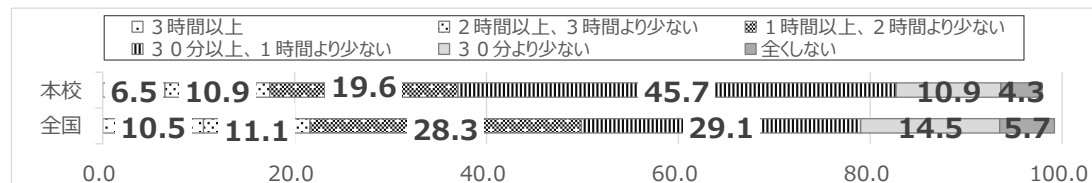
●友達との話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする力に課題が見られます。

●家庭学習の時間については、「30分以上1時間未満」と回答した児童が45.7%と、約半数を占めています。一方、「1時間以上」学習している児童の割合は計37.0%で、全国計49.9%を下回っています。今後は、家庭学習の習慣を身に付け、学習時間を確保することが課題となっています。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分らないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	82.6	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	76.1	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	89.2	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	73.9	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	84.8	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.3	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎自分にはよいところがあると感じている児童が全国平均を上回っており、自己肯定感が育まれています。

◎「地域や社会をよりよくしたい」「人の役に立ちたい」という思いをもつ児童が多く、思いやりの心や社会の一員として貢献しようとする意識が育っています。

●将来の夢や目標をもつことに課題が見られます。将来の夢や目標をもっている児童の割合が全国を下回っており、自分の将来について考えたり、夢や目標を持ったりする機会を大切にしていける必要があります。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.7	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	89.1	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

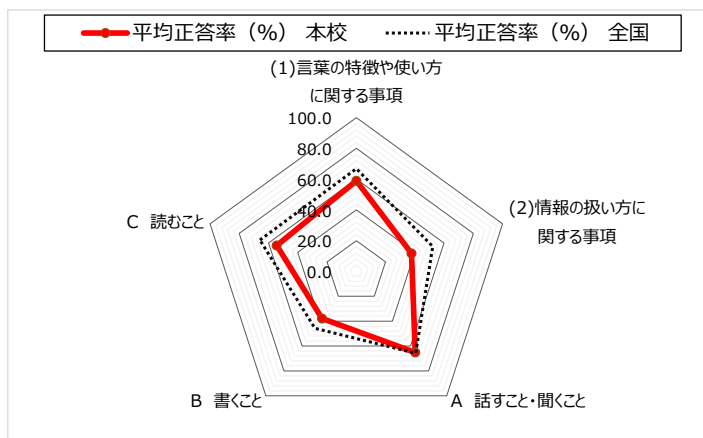
- 主体性を伸ばす3つの力「自律」「尊重」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるような授業づくり、学習活動の設定をします。互いに認め合う場面を増やし、落ち着いて学習や生活できる学級づくりを進めます。友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深め、新たな考え方に気づくことができるように、職員一丸となって実践していきます。
- 自分の得意なことや興味のあることを見つめ、将来の夢や目標について考える機会を大切にし、様々な人の生き方や仕事に触れる活動を通して、自分の将来を具体的に思い描ける取り組みを進めます。

【ご家庭では】

- お子様の「やってみたいこと」や「興味のあること」について話す機会を設け、実際に調べたり、体験したりする機会をつくってみてください。また、「そのために今できることは何かな？」と一緒に考え、小さな目標を決めて取り組むことを大切に、励ましの声掛けをしていただきたいと思います。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	58.9	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	37.8	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	65.2	65.8
	B 書くこと	37.8	45.7
	C 読むこと	54.4	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	54.8	61.9
短答式	55.6	62.6
記述式	43.3	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「話すこと・聞くこと」については、全国平均とほぼ同程度の結果となっており、相手の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりする力は概ね身に付いています。

●「書くこと」については全国平均を下回っており、特に記述式問題の正答率も低いことから、自分の考えやその理由・根拠を整理し、文章で説明する力に課題が見られます。

●「情報の扱い方に
関する事項」は全国平均を大きく下回っており、複数の情報を整理し、情報同士の関係を捉える力に課題が見られました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 一	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	75.6	73.9
1 二 (2)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	64.4	63.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	17.8	33.5
3 二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	35.6	55.6

調査結果を受けて

【学校では】

○「書く力」を育てるために、書く前に考えを整理する時間を大切にします。教師が書き方のモデルを示し、キーワードやつなぎ言葉を使って考えを整理したり、文章や資料から必要な情報や根拠を見付けたりする活動を取り入れます。また、「話す→考える→書く」の流れを意識し、話し合いで深めた考えを文章にまとめる活動や、日記・振り返りなどの短い文章を書く活動を継続します。児童の実態に応じて、キーワードから一文、段落へと段階的に取り組み、「何を書けばよいかを考え、自分の考えを文章として表現する力」を育てていきます。

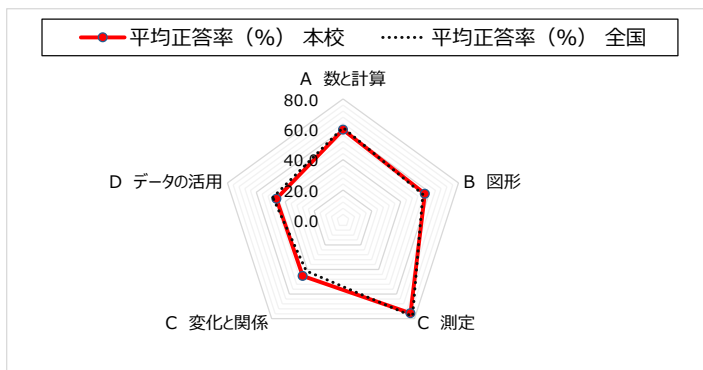
【ご家庭では】

○家庭では、日常の会話を通して、「考えを言葉にする経験」を大切にいただければと思います。「どうしてそう思ったの?」「なぜ?」と問いかけたり、学校での出来事ことや読んだ本について自分の考えを話したりすることで、考えを整理して伝える力が育ちます。また、日記や短い文章を書くなど、無理のない範囲で「何があった・どう思った・なぜそう思った」を表現する話す機会もつくってみてください。

○読書後に、心に残った場面や登場人物の気持ちについて話す機会をつくってみてください。「なぜその場面が心に残ったのか」「登場人物はどうしてそのような行動をしたのか」など、理由を尋ねることで、文章の内容を深く考えるきっかけになります。また、本の内容を家族に紹介したり、読んだ本のおすすめの理由を書いたりする活動も効果的です。あらすじだけでなく、自分の感想や考え、その根拠を伝えることで、読んだことを整理し、言葉で表現する力を育てていくことができます。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	59.7	61.1
B 図形	56.7	55.3
C 測定	75.6	78.1
C 変化と関係	45.2	41.1
D データの活用	46.1	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	60.9	56.0
短答式	60.0	59.7
記述式	45.9	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「図形」では、全国平均を上回っており、図形の性質や特徴を捉える力が身に付いています。また、「変化と関係」についても全国平均を上回っており、数量の関係を捉えて考える力が身に付いています。

●「数と計算」や「測定」では、全国平均をやや下回っています。また、記述式の問題でも全国平均を下回っていることから、身に付けた知識や技能を活用し、考え方や求め方を文章や式で説明する力に課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	86.7	72.7
2 (1)	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	77.8	66.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (4)	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	33.3	45.2
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	8.9	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

○算数では、答えを求めるだけでなく、「何が分かっているのか」「何を求めるのか」「どのように考えたのか」を整理することを大切にします。問題文の大切な言葉に線を引いたり、図や表に表したりしながら、問題場面を正しく読み取る力を育てます。また、教師が考え方のモデルを示し、「まず」「次に」「だから」などの言葉を使って考え方を順序立てて説明する活動を取り入れます。日常生活にある算数の場面と学習を結び付けたり、友達と考え方を伝え合ったりすることで、「なぜこの式になるのか」「なぜこの答えになるのか」を式や言葉で説明する力を育てていきます。さらに、キーワードから考える、図に表す、式にする、説明するというように、段階を踏んで取り組むことで、算数が苦手な児童も安心して考えを表現できるようにしていきます。

【ご家庭では】

○家庭では、買い物や料理、時間、距離など、身近な生活の中にある算数に目を向けさせてみてください。「どうしてそうなの？」「どんな計算をしたら分かる？」と問いかけることで、答えだけでなく、考え方を説明する経験につながります。また、学校で学習したことについて「今日どんな勉強をしたの？」「どうやって答えを出したの？」と聞いていただくことも効果的です。お子様が自分の言葉で説明することを大切にし、「答え」だけでなく「そこにたどり着くまでの考え方」を表し、それらを認めていただければ本人の自信とやる気につながると思います。